＜連載(123)＞

高速カーフェリーの時代

大阪府立大学海洋システム工学科教授
池　田　良　穂

2月の 末から、客船情報の年鑑「フェリー・客船情報99」の編集に没頭している。200ページという比較的厚い本造りは、原稿集め、取材、記事の執筆、そして編集作業と、やってもやっても作業が終わらない感じで、そろそろ根を挙げそうな心境である。目標は、今週末の編集終了であるが、毎晩、帰宅後は写真の割り付けや校正作業に追われている。本誌「月刊共有船」の編集作業もさぞかし大変であろうと、しみじみと実感し、編集者のご努力に深く感謝した次第である。

この本の取材のために、この1年間に幾隻かのクルーズ客船やカーフェリーに乗船し、また船会社の経営者や船員の方々にインタビューすることができた。これらは、筆者にとってたいへん大切な生の情報源であり、そして大学での船舶工学の研究テーマへのヒントになることも多い。

こうしたインタビューで特に印象に残っているのは、国内では熊本フェリーの井手常務、日本クルーズ客船の入谷社長、海外ではスター・クルーズの張副社長などである。いずれも、アグレッシィブ（積極的）で、勉強家であり、すばらしいポリシーを元に経営をして成功されている。新しいタイプの客船事業が、日本国内でも、また海外でも着実に芽を吹き、成長しはじめていることが実感できた。これらのインタビューについては「フェリー・客船情報99」に掲載しているので、ぜひお読みいただきたい。

前回の 本欄では、話題の高速カーフェリーについて述べた。この原稿を書き終えた後、苫小牧のTSL誘致促進期成会に呼ばれて高速カーフェリーについて講演をする機会に恵まれた。講演のタイトルは「21世紀の海上高速輸送手段と展望について」とした。

日本のTSLプロジェクトについては、なかなか難しいターゲットを最初に設定してしまって実現がすぐには難しいというのが筆者の前々からの見解で、高速のカーフェリーを比較的短距離航路に投入するのが最も現実的と

いう趣旨でお話をするとともに、最近の大型化した高速カーフェリーを使えば300km程度までの中・長距離航路でのフィージビリティも出てきているとの研究成果について説明をした。TSLプロジェクトにおいても、長距離の貨物輸送にこだわらず、短距離航路のカーフェリーについての検討も始め、筆者らの研究室でのフィージビリティ・スタデイとほぼ同様の結論を出していると聞いている。これから日本の国内でも多くの航路で就航するようになると考えられる高速カーフェリーについての幅広い研究が期待される。

「フェリー・客船情報99」の編集をしていて、内外の高速カーフェリーの資料に接していて新しい傾向に気がついた。1つは、速力が40ノットを越える大型高速カーフェリーが増えつつあることであり、もうひとつは速力が30ノット前後で乗用車を20～40台程度搭載するタイプの小型の高速カーフェリーが幾隻か登場しはじめたことである。

後者からは、輸送需要が比較的少なく、かつ短い航路においても、車と旅客を同じに運ぶカーフェリーのニーズが着実に増加してきつつあることを実感させられる。こうした小型高速カーフェリーは、なかなか採算をとることが難しい船ではあるが、離島航路をはじめとして、船しか輸送手段のない航路においては、今後、大いに普及していくことが予想される。

日本の中では、大阪の三保造船所が建造した19トン型の高速カーフェリー「ゴールド・フェニックス」が注目される。この船は、笠岡諸島航路に就航するために昨年はじめに完成したユニークな船であるが、港の使用問題があって運航許可がでず、1年余りも係船という不運に見舞われ、昨年末からようやく朝、夕の数便の運航が実現したという船である。日本では、新しい技術がなかなか正当に評価されず、活用されないという典型的な例のように思われる。規制緩和の時代に逆行しているようにも思われる事例であるが、新しい斬新な船舶を使った新しい需要の開拓に官民あげて協力する体制をぜひ作り上げていただきたいものだ。

ゴールド・フェニックス

また、こうした小型高速カーフェリーの開発にも積極的な取り組みが期待される。技術的には、これまでの半滑走型の高速旅客船の技術の延長線上にあり、比較的小さな造船所に適した船種と考えられる。オーストラリアのアルミ船造船業のように、ベンチャー的で活気のある新しい造船業の育成が必要な時代になってきていると思われる。

最後に、久々に筆者の顔写真を変えさせていただくこととした。思えば、本連載も123回。すなわち10年以上の連載となる。写真はその間一度も変えずにきたから、現在の写真は10数年も前のものである。一昨年、一緒に高速カーフェリーの視察に行った大川海運物産の真崎社長と、最初に会った時「先生はもっと若いと思っていました」と一言。その原因は、本欄の写真にあることが判明したので、最新の写真を掲載して本当の現状に訂正させていただきます。

新刊書案内 **フェリー・客船情報'98**

編集：池田良穂（大阪府立大学海洋システム工学科教授）　Ａ４版２０１ページ
写真２７０枚、船舶図面５０枚、発行：船と港編集室、定価：１２，８００円

旅客船、カーフェリーに関する情報を満載した「客船の年鑑」。旅客船の運航者、建造技術者必携

内容：■客船・フェリー界の最新話題、■客船建造で活躍する造船所（インキャット、三菱下関）■話題の新造客船紹介、■フェリー会社紹介、■高速カーフェリー視察記、■客船の技術（シーマージン、バリアーフリー、波浪中運動制御、自動係船装置など）、■乗船記（さんふらわああいぼり他）、■新造客船紹介

注文方法：一般書店では扱っていませんので、船と港編集室（〒593-8303 堺市上野芝向ケ丘町1-23-1-420）までファックス（０７２２－７０－０６１２）にてお申し込み下さい。